

日頃の教育に対する工夫、及び今後の教育への抱負

機械・システム工学科 原子力安全工学コース 福元謙一

昨年に引き続いて令和4年度優秀教員に選出されたことについて、改めて驚いています。学部生3年生に対する授業については自分の専門の「原子力材料学」と「原子力安全工学実験」がその対象ですが、昨年と同様にコロナ禍で導入せざるを得なかったリモート学習を念頭に授業内容・方法を変えた点が大きいかと思います。この変更点について評価されたと考え、教育に対する工夫について報告いたします。

昨年も書きましたが原子力材料学についてですが、数年前は不人気な授業でした。これを変えたのが、オンデマンドによる完全リモート化作業です。授業の音声原稿を作成して音声読み上げソフト（ボークロイド）で自動読み上げさせた音声ファイルを用いて説明する手法です。非常に手間のかかる作業ですが、授業で用いるすべてのスライドを丁寧に再構築作業をしていく上で内容の見直しを行い、難しい部分を丁寧に説明していくよう組み立てます。この過程で難解な内容を削り、理解しやすい内容に修正変更して見直したことが学生として理解しやすかったことと考えます。

原子力安全工学実験ですが、授業レポートの提出形式について、過去の成績の良かったレポートを見え消しやぼかしを入れて文章内容は見えないがレポート形式と体裁は理解できるようにして掲示しました。これにより一般的なレポート作成の要領を学生に理解を促す上で役に立っていたと考えます。

「コロナ禍」という特殊環境乗り越えるために試行錯誤した結果が評価された結果の選考と考えます。Webclassなどの利用によりレポートの添削の簡易化や評価の即時性が高まり、評価時のデータの採集速度の迅速化が図られ、学生が何を難しく感じられるかを速く理

解できてそれを授業に反映できるなどの効果もあります。これからも学生皆さんに聴いてもらえるような授業を心がけていきたいと思っています。いったん組上げてしまった授業を大幅に見直すのはなかなか骨のある仕事ですが、優秀授業表彰などの制度があると励みにはなります。それが今年も受賞できた原因かもしれません。